

ダニエル書 - ナンバー三十五

預言的枠組みを解き明かす：ウィリアム・ミラーの洞察とハルマゲドンへと導く荒廃をもたらす三つの勢力

Jeff Pippenger

2023-12-30

1798年の「終わりの時」に、ダニエル書、より具体的にはウライ川で示された幻の封印が解かれた。その幻は、1844年10月22日に調査審判が始まることを告げた。その真理の土台となった聖句は、ダニエル書8章14節である。ウィリアム・ミラーは、このメッセージの封印が解かれたことを見いだすように選ばれた使者であったが、この幻に関連するすべての真理を完全に理解したわけではなかった。しかし、彼は自分に与えられた働きを果たした。

ミラーが預言の言葉の研究を始めると、彼は聖書の中で示され確立されている預言解釈のいくつかの原則を理解するようになった。これらの原則は体系化され、「ウィリアム・ミラーの解釈原則」として特定された。これらの原則は靈感によって支持され、日曜法の時に執行審判の開始を告げる者たちが用いる原則であると示されている。ミラーは、聖書の冒頭から研究を始め、当時検討していた事柄を理解できたときにのみ先へ進んだと証言している。このアプローチから、ミラーが最初に認識した、彼が1844年に成就すると同定したメッセージに関係する時の預言が、レビ記26章の「七つの時」であったことは容易に理解できる。

靈感は私たちに教えている。天使ガブリエルは、他の聖なる天使たちとともに、ダニエル、黙示のヨハネ、そして聖書のすべての預言者たちの思いを導いたのと同じように、ミラーの心を導いた。というのも、サタンが失った務めがガブリエルに与えられていたからである。ガブリエルの務めは、サタンのかつての名であるルシファー（「光の担い手」を意味する）に表されていた。ガブリエルは預言の光をミラーにもたらし、彼はその光に従って、1844年10月22日に調査審判が開始されたことを告げるメッセージを伝えた。

振り返ってみれば、ウィリアム・ミラーの働きを理解しようとする者は、彼が近づく審判のメッセージをまとめ上げる働きの鍵となる、預言の言葉へのいくつかの洞察を与えられていたことを認識できる。その鍵の一つは、預言的適用において一日が一年を表すという彼の認識であった。もう一つは、彼が見いだした預言の諸期間や筋道を配置し、整合させるために用いた預言的構造であった。その構造は、神の民と神の聖所に荒廃をもたらした二つのサタンの権力に基づいていた。ミラーのすべての発見は、古代イスラエルの時代からキリストの再臨に至るまで、神の聖所と神の民を相次いで踏みにじってきた、異教に続く教皇制の歴史を表す預言的構造の上に据えられていた。

その預言的構造によって、彼は1844年10月22日が審判の開始であることを確立するために必要なすべての真理を正確に見極めることができた。しかしその理解は限られていた。というのも、彼には預言史において異教と教皇制に続く第三の迫害勢力が見えていなかったからである。彼がその真理を見る必要はなかった。彼の務めは1844年10月22日を告げ

ることであり、第三の迫害勢力に関する光はその日以後に封印が解かれることになってきたからである。

彼は、自らの預言理解を、異教ローマ、続いて教皇ローマという二つの荒廃させる勢力の枠組みに沿って整えるにあたり、ダニエル書で「the daily」と訳されている語が異教、あるいは異教ローマの象徴であると理解していた。「the daily」と訳される語「tamid」は、ダニエルによって五回用いられている。それは常に、ミラーが正しく教皇制を表すと理解した象徴と結びついて用いられている。「the daily」と常に関連して現れる教皇制の象徴は、二通りの象徴で表される。いずれの場合でも、その教皇権の二つの象徴はいずれも教皇制を指し示している。とはいえ、ダニエルが「the daily」と訳される「tamid」という語を用いたときには、常に教皇制の象徴とともに、しかもその前に置かれていた。ダニエル書の「the daily」に関するミラーの理解は、異教と、それに続く教皇主義という二つの荒廃させる勢力に基づくと彼が見なした構造の土台となった。ダニエル書の「the daily」を異教と同定したミラーの見解は、アドベンチズム内部で巨大な論争となる運命にあり、それは1888年に始まったアドベンチズム第二世代の時期に端を発した。

1844年10月22日の理解を成す要素であった、ミラーが発見した最初の予言的真理はレビ記26章の「七つの時」であり、これは1863年に退けられたミラーの確立された真理のうち最初のものであった。その拒絶を契機に、彼らはラオデキヤの荒野をさまよいつつ始め、アドベンチズムの第一世代が始まった。第二世代は1888年のミネアポリス総会で始まり、そこで起こった反逆の余波の中で、ミラーが「日ごとのもの」を異教と同定したことを拒むサタンの働きが1901年に始まった。「日ごとのもの」に関する正しい理解が完全に退けられたのは、女預言者の死後になってからであった。その女預言者は、ミラーの「日ごとのもの」に関する正しい見解に反対して推進されていた見解が「天から追放された天使たち」によってもたらされたと思っていた。完全な拒絶は第三世代の頃、1931年ごろに起こった。第三世代は、1919年の聖書会議の直後に刊行されたW・W・プレスコットの著書『キリストの教理』の出版をもって始まっていた。1919年に第三世代が始まり、1957年に『教理に関する質問』という書物が出版されるまで続いた。

ミラーの働きが確立され、ハバクク書の二つの板（1843年と1850年の先駆者の図表）において明確に示されたのち、主は、異教と教皇制に続いて現れ、神の民をも迫害する、もう一つ、すなわち第三の荒廃をもたらす勢力があるという真理を明らかにし始められた。

異教を通して、そして次には教皇制を通して、サタンは多くの世紀にわたり、地上から神の忠実な証人たちを消し去ろうと力をふるってきた。異教徒も教皇主義者も、同じ竜の霊に動かされていた。両者の違いはただ一つ、神に仕えるふりをする教皇制のほうが、より危険で残酷な敵であったという点だけであった。ローマ・カトリックを手段として、サタンは世界を虜にした。神の名を唱える教会はこの惑わしの陣営に取り込まれ、千年以上のあいだ、神の民は竜の憤りのもとで苦しんだ。そして教皇制が力を奪われ、迫害をやめざるをえなくなると、ヨハネは、竜の声に呼応し、同じ残酷で冒瀆的な業を推し進める新たな権力が起こるのを見た。この権力は、教会と神の律法に最後の戦いを挑むものであり、小羊のような角を持つ獣として象徴された。それ以前の獣は海から上ってきたが、これは地から上ってきた。それは、象徴されている国が平和裡に興起することを表している。「小羊に似た二本の角」は、アメリカ合衆

国政府の性格、すなわち共和主義とプロテスタント主義という二つの基本原則に表された性格をよく表している。これらの原則こそ、わが国の力と繁栄の秘訣である。最初にアメリカの岸辺に避難所を見いだした人々は、教皇主義の傲慢な主張と王権の専制から解放された国に到達したことを喜んだ。彼らは、市民的自由と宗教的自由という広い土台の上に政府を築くことを決意した。サインズ・オブ・ザ・タイムズ、1899年1月1日。

ミラーは第三の迫害勢力を見ることができなかった。そのため彼の体系は不完全ではあったが、彼の働きを果たすには完全に適していた。ホワイト姉妹は、ミラーが神に選ばれた使者であり、その働きにおいてはエリヤとバプテスマのヨハネの型で、働きへの召しにおいてはエリシャの型で、死においてはモーセの型で表されていることを示している。聖なる歴史の中で、天使たちが彼らをよみがえらせるために墓のほとりで待っていると靈感による注解が明言している人物はほとんどいないが、これはミラーに関する注解である。彼の働きが、彼が起こされた時代の歴史によって制約されていたという事実は、ミラーを貶めるものではない。むしろ、彼の働きを神の預言の言葉の真の光のもとで考察するために認めるべき必要にすぎない。

ミラーは、天使による明確な導きを与えられ、それによって、異教に続く教皇制という二つの荒廃をもたらす勢力に基づいた預言の枠組みを構築することができた。このため、それら二つの勢力によって成し遂げられた荒廃以後の歴史を示す預言については、ミラーは誤解していた。しかし、そのような誤解は一つとしてハバククの二つの聖なる図表には入り込んでおらず、そこにはミラーの働きを通して築かれた土台が図示されていた。だからこそ、1843年の図表について、靈感はそれが主の御手によって導かれたものであると記すことができた。

主は私に、1843年の図表は主の御手によって導かれ、そのいかなる部分も変更してはならず、数字も主が望まれたとおりであることを示された。さらに、主の御手がある上であって、いくつかの数字にある誤りを覆い隠しておられたため、御手が取り去られるまでは、誰にもそれは見えなかった。

それから私は、『Daily』に関して、『sacrifice』という語は人間の知恵によって補われたものであり、本文に属するものではないこと、そして主はその正しい見解を「裁きの時の叫び」を上げた者たちにお与えになったことを見た。1844年以前、一致があった時には、ほとんどの者が『Daily』についての正しい見解で一致していたが、1844年以後は混乱の中で他の見解が受け入れられ、闇と混乱が後に続いた。Review and Herald、1850年11月1日。

天使の指示に従ってミラーがまとめた諸真理は主によって導かれており、1843年の図表の承認においては、「the daily」が異教を表すというミラーの理解が正しいことも靈感によって認められた。「the daily」と訳されるヘブライ語「tamid」はダニエル書に五回現れ、常に、まず異教、次いで教皇制という二つの荒廃させる勢力の関係を表している。

「the daily」を異教の象徴とみなすミラーの理解は、彼が用いた預言的枠組みにおいて絶対に不可欠であった。というのも、異教に続いて教皇制が来るという連続的な関係が、

彼が理解へと導かれたすべての預言を整合させる際の拠り所となったからである。

1798年、「終わりの時」にダニエル書の封印が解かれ、ホワイト姉妹が再臨運動の「中心の柱」「基礎」と位置づけた主要な聖句は、ダニエル書8章14節であった。

再臨信仰の土台であり中心の柱として、何よりも重んじられてきた聖句は、「二千三百日まで。そのとき、聖所は清められる。」という宣言であった。[ダニエル書 8:14] 『大争闘』409ページ。

第十四節は第十三節への答えであり、その答えは問いの文脈なしには無意味である。

そのとき、私は一人の聖なる者が語るのを聞いた。すると別の聖なる者が、語っていたその聖なる者に言った。「常の献げ物に関する幻と、荒廃をもたらす背きによって聖所も軍勢も踏みにじられることは、いつまで続くのですか。」そして彼は私に言った。「二千三百日までである。その後、聖所は清められる。」ダニエル書 8章13、14節。

これら二つの節は、1798年の「終わりの時」にダニエル書の封印が解かれたときにもたらされた知識の増加の象徴である。十三節は、ミラーがその預言的モデルを築いた二つの荒廃をもたらす勢力を特定している。ミラーは、十三節の「the daily」を異教、「transgression of desolation」を教皇主義と見なした。天使たちがミラーに認識させた預言的モデルが、1798年に歴史に到来した知識の増加を表すこの二つの節の中に示されていることを認識するのは重要である。とはいえ、預言の舞台に次に現れて神の民を迫害する勢力について、ミラーには見る事が許されていなかった。

私は、二本の角を持つ獣には竜の口があり、その力はその頭にあり、そしてその口から布告が発せられるだろうことを見た。次に私は淫婦たちの母を見た。すなわち、その母は娘たちではなく、彼女たちとは別個で明確に区別されていることを。彼女の時代は過ぎ去り、彼女の娘たち、すなわちプロテスタントの諸派が次に舞台に登場して、母が聖徒たちを迫害したときと同じ精神を実行に移した。私は、母の力が衰えるにつれて娘たちは成長しており、やがて彼女たちはかつて母が振るったのと同じ力を振るうようになるのを見た。Spalding and Magan, 1.

ミラーは第三の勢力を見抜けなかったため、単純に誤った結論を下さざるを得なかった。ミラーは、黙示録13章の海の獣を異教ローマ、地の獣を教皇ローマと同定した。彼の黙示録17章の適用も、第二の荒廃させる勢力である教皇制を越えて延びる預言的歴史を見通せなかったことにより、欠陥があった。このため、ミラーはダニエル書の預言におけるローマの勢力を、二つの段階で現れる一つの勢力として扱った。それは当時も今も正確な適用であるが、聖書預言の諸王国を、ローマで表される第四の王国を越えて続くものとして理解することを妨げた。彼は、第四の王国であるローマには異教ローマと教皇ローマという二つの段階があると認識したが、教皇ローマが第五の王国でもあり、その後第六の王国が続くことは見抜けなかった。

ダニエル書2章において、ミラー派は聖書預言の第五の王国の要素を第四の王国と混同した。基本的なレベルでは彼らの適用は正しかったが、不完全であった。というのも、聖書預言の王国に関する最初の言及は最後の言及と一致しなければならないからである。イエスはアルファでありオメガであって、常に初めをもって終わりを示される。連続する二つ

の王国の区別を見分けられなかったため、ミラーは次のことを認識できなかった。すなわち、黙示録12章が異教（竜）を指し、黙示録13章の海からの獣が教皇制（獣）を、そして黙示録13章の地からの獣が背教的プロテスタント（偽預言者）を指しているということである。

ミラーは、黙示録12章と13章において、竜、獣、偽預言者を三つの連続した王国として見ることができず、そのため、彼は預言的論理上、その二つの章は世界をハルマゲドンへと導く三つの勢力を順に示したものではないと仮定せざるを得なかった。ミラーに与えられた光は彼の世代にとって完全な光であり、彼の世代はその光によって試された。

三つの荒らす勢力（竜、獣、偽預言者）の光は、1989年の「終わりの時」にFuture for Americaに与えられた。ダニエル書第十一章四十節の成就としてのソ連崩壊とともに封印が解かれたダニエル書の箇所は第三の天使の光であり、一方ミラーには第一の天使の光が与えられていた。ダニエル書第十一章の最後の六節はFuture for Americaの運動の土台と中心の柱であると見なされ、ダニエル書第十一章四十節はその光を要約している。これは、ダニエル書第八章十三節と十四節がミラー運動で封印が解かれた光を要約していたのと同様である。

終わりの時には、南の王が彼に攻めかかり、北の王は戦車と騎兵と多くの船を従えて、つむじ風のように彼に向かって来る。彼は諸国に侵入し、洪水のように押し流して通り過ぎる。ダニエル書 11章40節。

その節は、1798年の「終わりの時」に始まった、南の王と北の王との間の戦争を示している。南の王は無神論的フランスを表し、その年まさに教皇制に致命的な傷を負わせた。教皇制はそこで北の王として表されている。1798年におけるフランスは、預言的に、ダニエル書七章の十の王国のうちの十分の一であった。これらの十の王国は異教ローマを表し、異教ローマは竜を表す。教皇制（北の王）は獣を表す。その節は、節の冒頭で致命的な傷を与えられていた北の王（教皇制）が、最終的には南の王（無神論の王）に報復することになると示している。教皇制が報復したとき、無神論の王はフランスという国家から、ソビエト連邦という連合体へと移っていた。フランスは一つの国家であったが、節の中で教皇制が南の王に報復したとき、南の王は「諸国」として示されており、旧ソビエト連邦もまたそうであった。

北の王（教皇権）が反撃に出たとき、それは「戦車」と「騎兵」、そして「多くの船」を伴っていた。戦車と騎兵は軍事力の象徴であり、船は経済力の象徴である。ソ連を打倒する目的で教皇権と不聖なる同盟を結んだ勢力はアメリカ合衆国であり、黙示録第十三章におけるアメリカ合衆国の二つの強みは、武力と経済の力によって世界に教皇権の印を受けさせる能力として示されている。人はその印がなければ売買を禁じられ、さらにその印がなければ殺されることになる。

第40節は、竜（南の王）、獣（教皇権）、偽預言者（アメリカ合衆国）を直接特定している。1989年の「終わりの時」の基礎となる聖句は、世界をハルマゲドンへと導く荒廃をもたらす三つの勢力を特定しており、ちょうどミラー運動の基礎となる聖句が、異教に続く教皇主義という二つの荒廃をもたらす勢力を特定したのと同様である。

その節は南の王と北の王の戦いから始まる。節の冒頭（1798年）では南の王が勝利するが、その節の中で北の王が反撃し、南の王に勝利する。節の冒頭は北の王と南の王の戦いを示しており、節に含まれるメッセージの結末でも同じ北と南の王の戦いが描かれるが、その結果は逆になる。この始まりは1798年の「終わりの時」を示し、結末の戦いは1989年の「終わりの時」を示している。この節は、その書かれた証言の中に、アルファとオメガ、すなわち初めと終わりという署名を含んでいる。

この節の実際の歴史は、1989年のソ連崩壊を過ぎ、四十一節の日曜法にまで続いている。日曜法において、現代のバビロンの三者連合が一連の迅速な出来事によってもたらされる。したがって、四十節は1798年に致命的な傷が与えられ、ツロの淫婦が忘れ去られるときに始まる。その節が表す歴史は、致命的な傷が癒され、ツロの淫婦が思い起こされる四十一節の日曜法において完全に終結する。始まりと終わりの印は、その節に見いだされる本文に記されているだけでなく、その節が表す全体の歴史にも記されている。その節は、単なる異教（竜）と教皇主義（獣）に基づく預言の枠組みを示すのではなく、世界をハルマゲドンへと導く三つの荒廃させる勢力の構造を明らかにしている。

ミラーの預言的枠組みは、神の調査審判の到来を告知させ、フューチャー・フォー・アメリカの預言的枠組みは、神の執行裁きの到来を告知させる。1989年の「終わりの時」に、ソビエト連邦の崩壊に伴ってダニエル書11章の最後の6節の封印が解かれ、三段階の試験と清めの過程が始まった。1798年に封印が解かれたウライ川の幻を正しく理解するためには、ミラーが異教と教皇制だけを見ており、背教的プロテスタンティズムを見ていなかったという区別を理解しておかなければならない。

その考察は次回の記事で続けます。

私たちには一刻の猶予もない。私たちの前には苦難の時代が待ち受けている。世界は戦争の機運にかき立てられている。まもなく、預言で語られた苦難の光景が現実となるだろう。ダニエル書11章の預言は、ほぼ完全な成就に至ろうとしている。この預言の成就として起こった多くの歴史的出来事は、再び繰り返されるだろう。

第30節では、「30節から36節引用」とある力について語られている。

「これらの言葉に描かれているのと似た光景が起こる。」Manuscript Releases, 第13号, 394.